

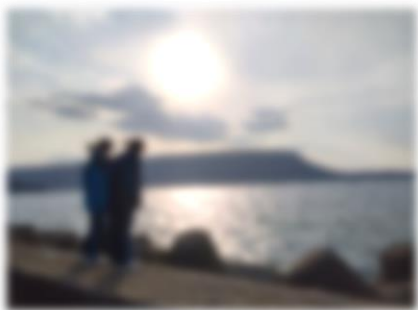


充実の屋島集団宿泊学習 ～ 自然と触れ合い 仲間との絆を深め 新たな一歩へ ～

11月28日(火)～30日(木)の期間、1年生が屋島集団宿泊学習を実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、宿泊や活動の人数制限があったため、学年全体を2グループに分け、それぞれ1泊2日で実施しましたが、今年度5月以降の5類移行により各種制限が解除され、学年一斉に2泊3日での宿泊学習が4年ぶりに実施できました。

11月下旬の時期ということで、悪天候を覚悟はしていたものの、初日の正午ごろの強風や横殴りの雨は予想を上回り、たいへんなスタートとなりました。しかし、カッター訓練中止に伴って実施した初日の午後の屋島登山、2日目のコース別体験学習、キャンドルサービス、2・3日目の野外炊事、勾玉づくり等、予定通りすべての活動を無事に終えることができました。こうした活動を通して、この3日間、子どもたちは様々なことを満喫できたと感じています。

1 自然を満喫



澄み切った空気、険しい屋島の地形、食事をしながら楽しめる海の絶景や鳴り響く波音、60匹以上の魚を釣り上げた釣り体験、源平合戦の歴史と爽やかな海風を感じながら心地よく自転車を走らせたサイクリング、大自然の中で競い合ったフライングディスクゴルフ、長崎の鼻での絶景を堪能したハイキング、至るところで見られる紅葉や落ち葉踏みを楽しみながらの移動や散策、強風や横殴りの雨、そして海辺の寒さ等々、海と山に囲まれた屋島の地ならではの自然を十二分に満喫できました。

2 体験活動を満喫

「1」とも重なりますが、3日間を通じて体験活動が極めて充実していました。特に野外炊事(カレーライス作り)はどの班も完成までの時間が速く、屋島少年自然の家の職員の方に驚かれるほどでした。これは、①子どもたちが説明をよく聞いて理解していること、②班員が分担してそれぞれの責任を果たすなど協力体制ができていたことが要因と感じました。

また、2日目のキャンドルサービス。第2部の「交歓の集い」は異様なほどに盛り上がりました。実はこれには伏線があります。それは、第1部の「迎え火の集い」で、ろうそくの炎を全員が静かに見つめ、極めて厳粛にセレモニーが執り行われたことです。静寂の中で心を整え、力を蓄えたことで、第2部を大いに盛り上げようという勢いが生まれました。まさに「静と動」のコラボレーション…。第3部の「送り火の集い」が再び心地よい静寂に包まれたのは言うまでもありません。



これらのエピソードは、学校生活で常々「聞くこと」「静と動の区別をつけること」を大切にしている成果だと感じました。

3 友達の優しさ、気遣い、温かさを満喫



この3日間、子どもたちの優しさ、気遣い、温かさを随所で感じました。登山で疲れている友達を勇気づける言葉、さりげなく荷物を持ってあげたり肩を貸してあげたりする優しさ、友達に失敗をさせまいと必死になってプレーし続けたキンボールの一場面、しっかりと準備してきたスタンプ(出し物)に対する拍手・歓声等の多種多彩なアクション。これらは意図的に行った行為もあれば、元来もっている優しさが自ずとそうさせた行為もあります。

さて、キャンドルサービスでは、1本のろうそくの火が5つに分火され、さらに参加者全員に灯されました。そしてその火が1つの燭台に集められ温かで優しい大きな灯(ともしび)となる場面がありました。これと同じように、子どもたちには、1人の優しさをたくさんの人に分け与え、それが1つに集められさらに大きな優しさ、温かさに広げてほしいと願っています。

たくさんの成果が得られた屋島集団宿泊学習。真価が問われるのは、現在の人権月間の取組や今後の学校生活で、屋島での学びを生かせるかどうかです。1年生の更なる成長に期待します。